

平成26年度 福祉のまちづくり研究所企画運営委員会【事後評価】

No.	研究課題名	コメント
1	バリアフリーに配慮した生活道路のゾーン対策に関する研究	<ul style="list-style-type: none"> ・速度抑制の仕組みは有効である ・提案内容が不明確である ・研究結果が行政に受け入れられるか疑問である ・研究結果を実施に繋げること ・国交省、厚労省、他府県等の取り組みについても調査すること
2	多様な人々に対応したオフィス職場環境の設計に関する研究 ユニバーサルデザイン概念と聴覚障害者の就労バリアの解決について	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドブックを作成したことは評価できる ・聴覚障害者の職場環境調査は重要で、データとして有用である ・ガイドブックは今後の障害者雇用施設にとって必需品である ・有効性の確認が必要である ・今後もバージョンアップを行うこと ・関係機関と連携しながら、普及に努めること
3	高齢者・障害者の日常生活における認知機能評価に関する研究	<ul style="list-style-type: none"> ・認知機能の早期発見は介護予防の重要な課題である ・研究成果としてアプリを開発したことは評価できる ・発達障害と認知症は同じ枠内で扱えるか疑問である ・開発したシステムに関する客観的評価を裏付けるエビデンスが必要である ・この研究成果が有効であるかを検証すること ・日常生活における支援に対する指標を構築すること
4	在宅摂食嚥下リハ支援機器の開発研究	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールド実験にもとづく取組みは実用性の観点から評価できる ・完成した試作品の効果の実証を行うこと ・実用化に近づいているので、さらに使用例を増やし、商品化すること ・姿勢情報の数値期及び頭頸部姿勢調整保持具のさらなる改良、活用促進を行うこと
5	筋電義手在宅練習支援システムの開発研究	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の必要性は理解できる ・筋電義手訓練支援の新たなデバイスの重要な開発として評価できる ・安全性を重視した信頼性の高いシステムである ・研究結果により、練習期間の短縮等の検証を行うこと ・在宅での練習のために引き続き検討すること ・在宅時に訓練できる環境を早急に整えること
6	片麻痺者を対象とした歩行リハビリテーション支援のためのコンピューターシミュレーション技術の応用研究	<ul style="list-style-type: none"> ・個人個人に合った下肢装具の安全性を高めるために必要な研究である ・シミュレーション技術は完成に近いが、実用性の検証が必要である ・シミュレーション結果が実際の現象と一致しているか検証が不十分である ・臨床への有用性検証も行うこと ・リハビリ方針や装具設計の指針となるよう発展させること ・今後は個別モデルの作成やシミュレーションも行うこと
7	足漕ぎ電動4輪車による高齢者の運動効果に関する研究	<ul style="list-style-type: none"> ・下肢機能維持のためのモビリティの新たな提案である ・複数の地区で実証フィールドを設けたのは、客観性、効率性の点で評価できる ・客観的評価を裏付けるデータ数の確保を行うこと ・被験者の意見も調査すること ・製品化に達するよう引き続き研究を続けること ・他の運動療法機器と比較しての考察を行うこと